

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-217010

(43)Date of publication of application : 10.08.2001

(51)Int.Cl.

H01M 10/40
C08F 14/18
C08F 14/22
C08F 30/08
C08J 3/24
C08K 3/00
C08K 5/109
C08K 5/41
C08L 27/12
C08L 27/16
C08L 43/04

(21)Application number : 2000-064167

(71)Applicant : UDAGAWA REIKO

(22)Date of filing : 01.02.2000

(72)Inventor : UDAGAWA AKIO

UDAGAWA REIKO

(54) POLYMER ELECTROLYTE AND LITHIUM ION SECONDARY BATTERY USING THE SAME

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a polymer electrolyte which has excellent preserving stability, high ion conductivity and superior mechanical properties and a lithium secondary battery using same which is compact and light weight and has a large capacity and high output density as well as excellent safety.

SOLUTION: This is a lithium ion secondary battery comprising a porous halogenous polymer film made by cross-linking the copolymer of fluorovinylden, fluorine-containing unsaturated monomer (for example, tetrafluoroethylene, hexafluoropropylene and chlorotrifluoroethylene) and alkoxy silane containing vinyl group (for example, trimethoxyvinylsilane, triethoxyvinylsilane and trimethoxy- α -fluoro-vinylsilane) and an electrolyte made by dissolving those ionic compounds included in it in the non-aqueous organic solvent.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 25.03.2004

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特願2001-217010

(P2001-217010A)

(43)公開日 平成13年8月10日 (2001.8.10)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
H 01 M 10/40		H 01 M 10/40	B 4 F 0 7 0
C 08 F 14/18		C 08 F 14/18	4 J 0 0 2
14/22		14/22	4 J 1 0 0
30/08		30/08	5 H 0 2 9
C 08 J 3/24	CEW	C 08 J 3/24	CEWA
	審査請求 未請求 請求項の数 6 書面 (全 7 頁) 最終頁に続く		

(21)出願番号	特願2000-64167(P2000-64167)	(71)出願人 598029667 宇田川 礼子 大阪府茨木市郡山2丁目23番14-603号
(22)出願日	平成12年2月1日 (2000.2.1)	(72)発明者 宇田川 秋夫 大阪府茨木市郡山2丁目23番14-603号
		(72)発明者 宇田川 礼子 大阪府茨木市郡山2丁目23番14-603号
		最終頁に続く

(54)【発明の名称】 高分子電解質およびそれらを用いたリチウムイオン二次電池

(57)【要約】

【課題】 電解質の保持安定性に優れ、イオン導電率が高く、機械的特性に優れた高分子電解質および小型・軽量であり、容量が大きく出力密度が高く、安全性に優れたりチウムイオン二次電池を提供する。

【解決手段】 フッ化ビニリデン、含フッ素不飽和单量体（例えば、テトラフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、クロロトリフルオロエチレン）およびビニール基含有アルコキシラン（例えば、トリメトキシビニールシラン、トリエトキシビニールシラン、トリメトキシ- α -フルオロビニールシラン）の共重合体を架橋した多孔質の含ハロゲンポリマーフィルムとそれに含まれるイオン性化合物を非水有機溶媒に溶解した電解液からなる高分子電解質を有するリチウムイオン二次電池。

【特許請求の範囲】

【請求項1】リチウム電池（陽極、陰極および电解質）において、电解質が、フッ化ビニリデン、含フッ素不飽和单量体（例えれば、テトラオロエチオラン、ヘキサオロプロトトリフルオロエチオラン、ヘキサオロアルキル基含有アルコキシランの共重合体を母体とし、リチウム塩の溶質とする高分子电解質であることを特徴とするリチウムイオン電池。

【請求項2】ビニール基含有アルコキシランが、ビニールトリメトキシシラン、ビニールトルトリエトキシシランあるいはトリアルコキシーアーフルオロビニールシンである請求項1に記載の高分子电解質。

【請求項3】請求項1に記載の共重合体をジアチル錫ジラウレート等のシラノール類触媒を含有した水中に浸漬することを特徴とする請求項1に記載の架橋高分子电解質。

【請求項4】高分子电解質が多孔質の共重合体由薄膜でされることを特徴とする請求項1～請求項3に記載のリチウム二次電池。

【請求項5】高分子电解質に含有される溶媒が、炭酸エスカルであることを特徴とする請求項1～請求項4に記載のリチウム二次電池。

【請求項6】高分子电解質が、リチウム塩を溶解した溶液を30～80重量%含有することを特徴とする請求項1～請求項5に記載のリチウム二次電池。

【発明の詳細な説明】

【0001】【発明の属する技術分野】本発明は、含フッ素多孔質架橋高分子电解質を用いたリチウムイオン二次電池に関する。特に、サイクル耐久性、イオン導電性、機械的特性に優れ、小型であり、容量が大きく、出力密度が高く、安全性の高いリチウム二次電池。

【0002】【従来の技術】リチウム二次電池は、高エネルギー密度であり、携帯電話、ノート型パソコン、デジタルカメラ等に使用され、最近急速に需要が伸びている。研究も盛んに進められているが、特にLiMnO₂・LiCoO₂・LiNiO₂等の金属酸化物を陽極に用いたりチウムあるいはリチウミオンを吸蔵・放出できる炭素材料を陰極に用い、有機溶媒とリチウム塩からなる非水电解液を用いたリチウムイオン二次電池が多数研究されている。

【0003】特開平4-506726号公報、特開平8-507407号公報には高分子电解質が提案されているが、ポリエチレンオキシド系高分子电解質は、有機电解液の保持安定性が悪く、網目構造のボリアクリレート系高分子电解質は、電気化学的に不安定である。

【0004】特開平10-284128号公報、特開平10-294131号公報には、フッ化ビニリデン・ヘキサオロアルキルビニール共重合体が、各々提案されており、リチウム二次電池に用いている。

【請求項1】【発明の属する技術分野】本発明は、リチウム二次電池に用いると充放電サイクル耐久性が向上することが提案されている。【0005】米国特許第5429891号（1995年）には、ポリマー製电解セルセパレーター膜との製造方法が提案されている。ポリマー材料と可塑剤を含んでおり、本組成物から可塑剤の一部を除去する必要があり、ポリマーはフッ化ビニリデンとヘキサオロアルキルビレンの共重合体である。米国特許第5429891号（1995年）には、架橋ハイブリッド电解質フィルムとその製造方法が提案されている。架橋方法として電子線などの放射線が用いられている。これらの提案の特徴は、共重合体中のヘキサオロアルキルビレンの含有量を制御することである。その結果イオン導電率が高くなり、機械的強度が向上することが報告されている。

【0006】特開平11-66948号公報には、フッ化ビニリデン・エチレン性不飽和单量体・エボキシ基含有单量体からなる共重合体により架橋する方法が提案されおり、イオン導電性、機械的特性に優れた高分子电解質が得られ、小型であり、容量が大きく出力密度が高く安全性の高いリチウムイオン二次電池が得られることが報告されているが、高価であり大型の電子線照射設備が必要である。電子機器製品の普及に伴い、高性能の電池に対する要望が大きく、より高度な技術を求めて研究が進められている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、電子線照射設備を使用しない多孔質架橋含フッ素高分子电解質の製造方法およびこれらの高分子电解質を用いることにより、电解質の保持安定性、イオン導電性、機械的特性に優れ、小型・軽量であり、容量が大きく出力密度が高く、安全性に優れたりリチウムイオン二次電池を提供することである。

【0008】

【発明が解決するための手段】本発明は上記記述を解決するために、研究を進めた結果、母体である共重合体とイオン性化合物を非水有機溶媒に溶解した电解質からなる固体高分子电解質において、母体共重合体に特定のフッ化ビニリデン共重合体を用い、架橋構造を形成するごとににより、イオン導電性、機械的特性および高温における电解液の保持安定性に優れ、製造が容易である固体高分子电解質を得ることができた。本発明者等はフッ化ビニリデン、含フッ素不飽和单量体およびビニール基含有アルコキシランからなる共重合体のフィルムを延伸して多孔質の高分子フィルムを作製し、架橋触媒としてジチル錫ジラウレート等のシラノール結合触媒を含有した水中に浸漬することにより、常温で架橋してイオノン性化合物を非水有機溶媒中に溶解した电解液を含浸するこにより、均一で多孔質の薄膜が得られ、イオン導電率

は1.0mS/cm以上である。含ハロゲン共重合体は、フッ化ビニリデン、含フッ素不飽和单量体およびビニール基含有アルコキシラン单量体の共重合体からなる固体高分子電解質である。多孔質のフッ化ビニリデン共重合体薄膜は従来公知の方法で容易に得ることができる。延伸法は最も一般的な方法であり、延伸温度、倍率等を制御することにより所定のサイズ口径の多孔質薄膜を得ることができる。

【0009】前記固体高分子電解質において、イオン性化合物の非水系有機溶媒に溶解した電解液が30～85重量%であり、前記イオン性化合物は、LiClO₄、LiBF₄、LiPF₆、LiCF₃SO₃、Li(CF₃SO₂)₂N、Li(C₂F₅SO₂)₂N、Li(CF₃SO₂)₃CまたはLi(C₂F₅SO₂)₃Cから選択される一種以上の化合物であり、前記非水系有機溶媒は、エチレンカーボネート、プロピレンカーボネート、ジメチルカーボネート、ジエチルカーボネート、メチルエチルカーボネートおよびγ-ブチロラクトンから選択された少なくとも一種以上の有機溶媒を含む。

【0010】本発明は陽極、陰極および電解質からなるリチウム二次電池において、陽極活性物質がLiMnO₂、LiNiO₂またはLiCoO₂からなり、陰極活性物質がリチウムイオンを吸蔵・放出できる材料からなり、電解質が前記の高分子固体電解質であることを特徴とするリチウムイオン二次電池である。

【0011】本発明は、母体のポリマーとイオン性化合物を非水系有機溶媒に溶解した電解液からなる固体高分子電解質であり、母体のポリマーが多孔質であり、特定の架橋触媒を用いて母体のポリマーに架橋構造を形成したフッ化ビニリデン共重合体を用いたことを特徴とする高分子電解質である。

【0012】母体のポリマーが多孔質であることが本発明の特徴であり、電解液の含浸を容易に行うことができるようになった。フッ化ビニリデン共重合体は、フッ化ビニリデン、含フッ素不飽和单量体およびビニール基含有アルコキシラン单量体の共重合体であり、これらの共重合体は比誘電率が高く、種々の低沸点有機溶媒に可溶で、成膜加工性に優れている。また、含フッ素不飽和单量体としてはテトラフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、パーカルオロアルキルビニールエーテルあるいはクロロトリフルオロエチレンが好ましく、ビニール基含有アルコキシラン单量体としては、CH₂=CF-Si(OCH₃)₃、CH₂=CF-Si(OC₂H₅)₃、CF₂=CF-Si(OCH₃)₃、CH₂=CH-CO-

OSi(OCH₃)₃、CH₂=C(CH₃)COOSi(OCH₃)₃、CH₂=CF-COO-Si(OCH₃)₃等が好ましく、架橋触媒としてはカルボン酸の金属塩、有機金属化合物、有機塩基、有機酸等が挙げられる。より具体的には、ジブチル錫ジラウレート、オクチル酸錫、オクチル酸鉛等が好ましく使用され、常温で架橋することができる。また、母体のポリマーの結晶化度を小さくし、電解質溶液の保持性を高めることができる。

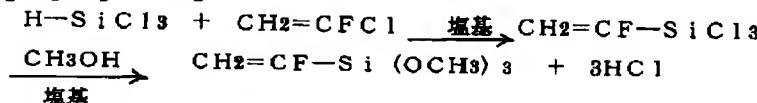
【0013】本発明の固体高分子電解質を用いたリチウムイオン二次電池は、イオン導電率が高く、従来のリチウム電池と同様の高い出力がある。また、安全性が高く、液漏れすることなく、超薄型化することができる。

【0014】

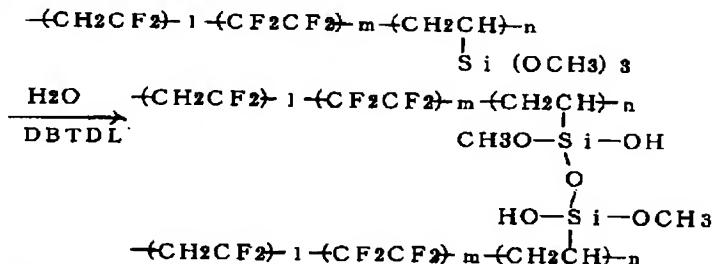
【発明の実施の形態】本発明において、共重合体の架橋を常温で行うため、含フッ素不飽和单量体としては、テトラフルオロエチレン、トリフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、パーカルオロアルキルビニールエーテルあるいはクロロトリフルオロエチレン等が挙げられるが、テトラフルオロエチレンが最も好ましい。ビニール基含有アルコキシラン单量体としては、トリメトキシビニールシラン、トリエトキシビニールシラン、CH₂=CF-Si(OCH₃)₃、CH₂=CF-Si(OC₂H₅)₃、CF₂=CF-Si(OCH₃)₃、CH₂=CH-COO-Si(OCH₃)₃、CH₂=C(CF₃)-COOSi(OCH₃)₃等が挙げられるが、トリメトキシビニールシラン、トリエトキシビニールシラン、トリメトキシ-α-フルオロビニールシランが最も好ましい。これらの中で特に、フッ化ビニリデン/テトラフルオロエチレン/トリメトキシビニールシラン共重合体が望ましく、フッ化ビニリデン55～75モル%、テトラフルオロエチレン10～20モル%、トリメトキシビニールシラン5～20モル%からなる共重合体が好ましく、トリメトキシビニールシランを10モル%以上添加することにより、共重合体の架橋密度が高くなり、さらに電極と高分子電解質との密着性が向上する。トリメトキシビニールシランおよびトリエトキシビニールシランは信越化学工業社で市販されているが、トリメトキシ-α-フルオロビニールシランは次式に示すスキームにしたがって合成することができる。

【0015】

【化1】



【0016】架橋触媒（シラノール縮合触媒）としては、ジブチル錫ジラウレート（DBTDL）、オクチル酸錫、オクチル酸鉛等が挙げられるが、DBTDLが最も一般的に使用される。共重合体の架橋反応式を次に示す。



【0018】本発明の高分子電解質において、イオン性化合物を非水系有機溶媒に溶解した電解液は30～85重量%が好ましい。電解液が30モル重量%以下であるとイオン導電率が 10^{-5} S/cm以下に低下し、85重量%以上になるとイオン導電率は $10^{-3} \sim 10^{-2}$ S/cmと高くなるが、フィルムの機械的強度が低下し、高温下では、電解液がしみ出る危険性があるので好ましくない。

【0019】本発明のイオン性化合物は特に限定されないが、LiClO₄、LiBF₄、LiPF₆、LiCF₃SO₃、Li(CF₃SO₂)₂N、Li(C₂F₅SO₂)₂N、Li(CF₃SO₂)₃CまたはLi(C₂F₅SO₂)₃Cから選択されるリチウム塩が好ましい。

【0020】本発明の非水系有機溶媒は特に限定されないが、通常、カーボネート、アミド、ラクトン、エーテル、ニトリル等が用いられるが、中でもエチレンカーボネート、プロピレンカーボネート、ジメチルカーボネート、ジエチルカーボネート、メチルエチルカーボネートあるいはアーブチロラクトンが特に好ましく、混合溶媒がよく使用される。

【0021】本発明の固体高分子電解質は色々な方法で製造できる。例えば、フッ化ビニリデン/テトラフルオロエチレン/トリメトキシビニールシラン共重合体の薄膜を従来公知の延伸法等により多孔質膜とし、常温の3～5%のDBTDL水溶液中に、12時間から48時間浸漬し、架橋させて水、アルコールおよび未反応のシランカップリング剤を減圧除去し、イオン性化合物を溶解した電解液を含浸させて高分子電解質の薄膜を形成させる。この高分子電解質は、イオン性化合物を非水有機溶媒に溶解した電解液が、母体である多孔質フッ化ビニリデン/テトラフルオロエチレン/トリメトキシビニールシラン共重合体フィルム中に均一に含浸しているのでイオン伝導性が高く、高温度下での電解液保持安定性に優れている。

【0022】本発明のリチウム二次電池は、陽極、陰極および電解質からなり、陽極活物質が金属酸化物であるLiMnO₂、LiCoO₂またはLiNiO₂からな

す。

【0017】
【化2】

り、陰極活物質がリチウムイオンを吸蔵・放出できる炭素材料からなり、電解質が本発明の固体高分子電解質である。このリチウムイオン二次電池は、高イオン伝導性の高分子を電解質に使用しているので、小型・軽量であり、容量が大きく安全性の高いエネルギー源を提供することができる。陽極集電体としては、従来のステンレス、アルミニウム、銅、ニッケル等の薄膜、網状物またはシート状のものを用いることができる。

【0023】以下に本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明はこれらの実施例により限定されるものではない。固体高分子電解質の薄膜の調製とイオン導電率の測定はアルゴンガス雰囲気中のグローブボックス中で行った。所定の厚さの固体高分子電解質薄膜を形成し、一定の大きさに切り取り、表面を洗浄した二枚の白金電極中に挿入して、白金電極からのリード線をエレクトロケミカルワークステーションに接続して室温下で測定した。測定周波数は1 Hz～100 Hz、印加電圧は0.1 Vで行った。充放電試験は、充電方向から0.2 クーロンの電流で電圧が4.5 Vになるまで充電し、30分間休止後、同電流密度で電圧が2.0 Vになるまで放電した。以下、充放電を繰り返し、電池の特性を評価した。電池の繰り返し充放電特性の測定は、北斗電工社製HJ-201を使用した。

【0024】

【実施例】実施例1

イオン交換水500 ml、パーフルオロオクタン酸アンモニウム塩0.5 gおよびCH₂=CF[CF₂OCH(CF₃)₂COOH]で示される反応性乳化剤0.5 gを内容積1 lのオートクレーブ（攪拌機付き）に仕込み、窒素ガスを圧入して脱気する。この加圧・脱気を繰り返した後、溶存空気を除去し、フッ化ビニリデン/テトラフルオロエチレン/トリメトキシビニールシランの75/15/10モル%比の単量体混合物を、60°Cで10 kg/cm²まで加圧した。次に酢酸エチルを1.5 g圧入し、過硫酸アンモニウム0.2 gを仕込み、容器内圧力が10 kg/cm²となるように本混合モノマーを連続して供給し、50時間反応を行った後、容器内を常温・常圧まで戻し反応を完了させた。この水性分散

液を150°Cの乾燥器中で1時間乾燥したところ、微粉体の共重合体が得られた。

【0025】前記で合成した共重合体10gを80gのテトラヒドロフランに溶解して、30分間静かに攪拌して気泡のない溶液を調製した。この溶液を表面を洗浄したステンレス基板上に塗布し、40°Cで1時間かけて乾燥して高分子薄膜を作製した。このフィルムを100°Cで2倍に延伸して厚さが100μmの多孔質薄膜を作製した。このフィルムを常温の3%DBTDL水溶液中に24時間浸漬して、乾燥させて架橋フィルムを作製した。一方、エチレンカーボネートとプロピレンカーボネート(重量比1対1)の混合溶液にLiPF₆を加えて、1モル/1のLiPF₆電解質溶液を調製した。前記のフッ化ビニリデン共重合体の架橋多孔質フィルムを混合電解質溶液に約1分間浸漬し、その後密閉容器内で35°Cで12時間放置したところ、厚さが115μmの高分子電解質薄膜が得られた。電解質溶液の含有量は62重量%であった。この高分子電解質薄膜を一定の大きさに切り取り、イオン導電率を測定した。

【0026】実施例2

実施例1において、テトラフルオロエチレンの代わりにヘキサフルオロプロピレンを用いた以外は、実施例1と同様な方法で固体高分子電解質薄膜を作成したところ、厚さが100μmで電解質溶液の含有量は60重量%であった。

【0027】実施例3

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	比較例1	比較例2
イオン導電率 (mS/cm)	1.3	1.2	1.4	1.2	7.6× 10 ⁻²	5.6× 10 ⁻⁴

【0033】実施例5

陽極活性物質に金属酸化物、電解質に本発明の多孔質架橋高分子固体電解質、陰極にリチウムイオン吸蔵炭素材料を用いた薄型ポリマーリチウムイオン二次電池の概略図を図1に示す。この高分子リチウムイオン二次電池は次のようにして作製した。実施例1で調製したフッ化ビニリデン共重合体、LiPF₆、プロピレンカーボネートおよびテトラヒドロフランの10対1.5対10対10の重量比の溶液を作製した。この混合溶液に、LiMnO₂とアセチレンブラックの混合物(重量比は92対8)を加えて、攪拌して混合物を調製した。この混合物とフッ化ビニリデン共重合体の重量比が95対5の割合になるように調合した。次にこの混合物からテトラヒドロフランを蒸発除去し、25mAhの容量を持つ厚さ150μmの陰極活性物質を作製し、陰極集電体のステンレス箔にはりつけた。次に陽極集電体の外周部の上に加熱圧縮タイプのホットメルトを載せ、本発明実施例1の高分子固体電解質薄膜を陰極活性物質層を形成した陰極集電体との間に挿入し、加熱することによりホットメルトを集電体の外周端部に完全に接続して、ポリマーリチウムイオン二次電池を作製した。リチウムイオン二次電池の放電特性を図2に、充放電特性を図3に示す。

実施例1において、テトラフルオロエチレンの代わりにクロロトリフルオロエチレンを用いた以外は、実施例1と同様な方法で固体高分子電解質フィルムを作製したところ、厚さが95μmで電解質溶液の含有量は60重量%であった。

【0028】実施例4

実施例1において、LiPF₆の代わりにLi(CF₃SO₂)₂Nを用いた以外は実施例1と同様な方法で固体高分子電解質フィルムを作成したところ、厚さが98μmで電解質溶液の含有量は60重量%であった。

【0029】比較例1

実施例1において、高分子薄膜を作製した後、延伸処理を行わないで3%のDBTDL水溶液中に24時間浸漬して架橋した。それ以外は実施例1と同様な方法で高分子電解質薄膜を作製したところ、電解質溶液の含有量は43重量%であった。

【0030】比較例2

実施例1において架橋フィルムの混合電解液中の浸漬時間を短縮して、電解質溶液の含有量を20重量%とした。

【0031】実施例1から実施例4および比較例1、比較例2の高分子電解質薄膜のイオン導電率の測定結果を表1に示すが、本発明で得られた高分子電解質薄膜は高いイオン導電率を示すので、実用可能である。

【0032】

【表1】 本発明の固体高分子電解質のイオン導電率

を混合し、攪拌して混合物を調製した。混合物とフッ化ビニリデン共重合体との重量比が95対5になるように調合した。この混合物からテトラヒドロフランを蒸発除去し、ロールプレスによりシート状に成形して、25mAhの容量を持つ厚さ150μmの陰極活性物質を作製し、陰極集電体のステンレス箔にはりつけた。次に陽極集電体の外周部の上に加熱圧縮タイプのホットメルトを載せ、本発明実施例1の高分子固体電解質薄膜を陰極活性物質層を形成した陰極集電体との間に挿入し、加熱することによりホットメルトを集電体の外周端部に完全に接続して、ポリマーリチウムイオン二次電池を作製した。リチウムイオン二次電池の放電特性を図2に、充放電特性を図3に示す。

【0034】実施例5の結果から、本発明の高分子固体電解質を用いたリチウムイオン二次電池は、性能において従来の電解液を用いた二次電池と殆ど変わらないことがわかった。

【0035】

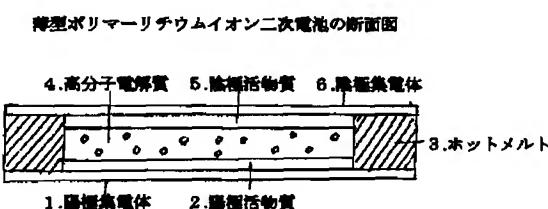
【発明の効果】本発明は、多孔質で架橋構造を形成した

フッ化ビニリデン共重合体を用いた固体高分子電解質である。多孔質の母体のポリマーを用いることにより電解液が含浸し易くなり、架橋することにより、イオン導電性、機械的特性に優れ、高温での電解液の保持安定性に優れた固体高分子電解質を得ることができる。また、本発明は前記固体高分子電解質を用いたリチウムイオン二次電池であり、導電率が高いので、従来の電解質溶液を用いた二次電池と同等の特性があり、安全性にも優れ、液漏れする事がない。

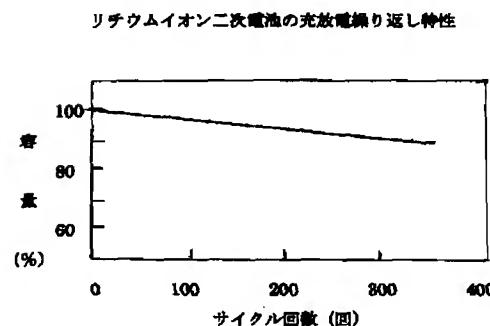
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の薄型ポリマーリチウムイオン電池の断面図を示す説明図である。

【図1】



【図3】



【図2】本発明のリチウムイオン二次電池の放電特性(電圧と容量の関係)を示す説明図である。

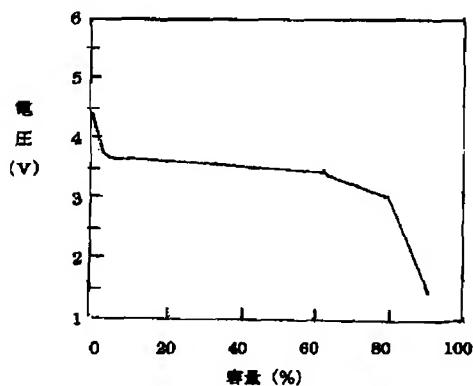
【図3】リチウムイオン二次電池の充放電繰り返し特性(容量とサイクル回数の関係)を示す説明図である。

【符号の説明】

1. 陽極集電体
2. 陽極活性物質
3. ホットメルト
4. 高分子電解質
5. 陰極活性物質
6. 陰極集電体

【図2】

リチウムイオン二次電池の放電特性



フロントページの続き

(51) Int.Cl.⁷

C 08 K 3/00
5/109
5/41
C 08 L 27/12
27/16
43/04

識別記号

F I
C 08 K 3/00
5/109
5/41
C 08 L 27/12
27/16
43/04

テマコード(参考)

!(7) 001-217010 (P2001-h*10

Fターム(参考) 4F070 AA11 AA23 AA24 AB09 AB14
GA01 GB06 GC02
4J002 BD121 BD141 DE196 DH006
DK006 EV216 EV236 EV266
FD116 GQ00 GQ02
4J100 AC24P AC26Q AC27Q AC31Q
AP16R BA77R CA05 EA13
HA53 HC85 JA43 JA45
5H029 AJ03 AJ06 AJ11 AJ12 AK03
AL06 AM02 AM03 AM04 AM05
AM06 AM07 AM16 BJ04 BJ12
CJ13 DJ13 EJ12 EJ14 HJ01